

## 第4学年社会科学学習指導案

日 時：平成19年9月14日（金）

場 所：一戸町立一戸小学校 4年1組

児 童：男子20名 女子12名 計32名

授業者：山 本 太

### 1 単元名

6. 暮らしを高めるねがい (2) 新しく畑を切り開いた人たち

### 2 単元について

#### (1) 本単元のねらい

本単元は、第3学年及び第4学年の目標(2)「地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする」を受けて設定したものである。さらに、内容の(5)「地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする」のウ「地域の発展に尽くした先人の具体的事例」を取り扱うものである。

具体的事例としては、町内の奥中山地域を開拓した先人と人々の生活の変化を取り上げ、開拓の様子や人々の生活の変化について調べることを通して、気候や土壌等の悪条件を乗り越えて地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心について考えさせたい。

#### (2) 教材について

奥中山地域は町内の最南端に位置する。西岳のふもとに広がる奥中山高原には、鮮やかな緑のレタス畑が続いており、奥中山レタスの品質の良さは、日本一の折り紙がつけられている。しかし、この地域は寒さが厳しい上、火山灰に覆われているために保水力に乏しく、農業には不利であるといわれてきた。長い年月をかけた地域の先人たちの努力によって開拓が推し進められ、現在では県内でも有数の農業の盛んな地域になっている。

奥中山地域における農業開拓の歴史は、大きく三つの時代に整理することができる。

まず、明治20年春に浄法寺町から転居した鍛冶職・佐藤佐市郎と周辺地域出身の農民7名が取り組み始めた甘藍(きゃべつ)の栽培を主とする開拓である。これは、奥中山における本格的な農業の幕開けであった。人々は、苦しい生活を維持しながらも、南部甘藍を有利販売作物として栽培面積を広げていった。

次に、太平洋戦争直後の国の緊急開拓事業により、団長の八重樫治郎蔵が中心となって昭和20年から始められた原野開拓である。戦時中、軍馬養成に使用されていた用地約4000ヘクタールが開放され、開拓用地となった。外部からの入植者と地元民を加えた総勢約600戸あまりの県内最大の開拓団が入ったが、冷涼な気候や不良土壌等の悪条件に阻まれ、自給自足さえ困難な状況であった。入植者たちは苦難に耐えながら営農の確立のための試行錯誤を重ねていった。

そして、昭和40年代から昭和50年代にかけて、村山元組合長を中心として取り組んだ高冷地野菜の栽培と酪農・畜産業との連携、振興である。奥中山の立地条件を活かしてこれらの農業に取り組んだが、品質のよいレタスを栽培できることが分かり、地域を挙げて計画的に生産するようになった。酪農・畜産業と連携することで健康な土作りも進んできている。昭和54年には東北初の真空予冷施設を導入し、冷蔵輸送によって首都圏を中心に全国に出荷を行い、以来夏秋レタスの一大産地に発展している。

#### (3) 児童の実態及び指導観

児童は、これまで「ごみのゆくえ」や「水はどこから」の学習で、二戸地区クリーンセンターやリサイクルセンターの見学、家庭及び学校から出るごみや使われる水の調査をとおして、町の事業が人々の生活の維持と向上に役立っていることを考える学習を行ってきた。

意欲的に調べ活動をする児童が多く、調べたことを分かりやすくまとめ、進んで発表するようになってきている。しかし、課題に対する自分なりの予想を持ち、既習事項や生活体験からその根拠を見つけ出すことができる児童は少なく、調べて分かった事実を既習事項・生活体験、

まわりの考えと比較検討しながら自分なりの見方・考え方をもちつとるまでには至っていない。

そこで本単元の指導にあたっては、問題解決的な学習や見学を取り入れ、児童が主体的に学習に取り組み、奥中山高原の開拓と発展に尽くした人々の願いや苦勞・工夫について理解できるように指導していきたい。また、奥中山高原の開拓と発展に尽くした人々の願いや苦勞・工夫について自分なりの予想を立て、調べる視点を持ってから見学や調べ学習をするようにしたい。そして、自分なりの見方・考え方ができる力を伸ばすために、自分の考えをグループや全体で交流し合い、学び合う場を設定して、事象を多面的に見たり事象同士の関わりを考えたりできるようにしていきたい。

### 3 単元の目標

- (1) 奥中山高原の開拓と発展に尽くした人々の願いや苦勞・工夫について関心を持って調べ、地域に対する誇りと愛情や発展を願う気持ちをもつ。  
(関心・意欲・態度)
- (2) 奥中山高原の開拓と発展に尽くした人々の願いや苦勞・工夫について、当時の人々の生活や道具・地理的環境などをもとに考えることができる。  
(社会的な思考・判断)
- (3) 見学して調べたことや資料を活用して、奥中山高原の開拓と発展に尽くした人々の願いや苦勞・工夫について、文章や図に表すことができる。  
(観察・資料活用の技能・表現)
- (4) 奥中山高原の開拓と発展に尽くした人々の願いやそれを実現させるための工夫や努力を理解することができる。  
(知識・理解)

### 4 指導と評価の計画(9時間)

時	目標	展開の概要	評価規準
1 (本時)	・奥中山高原の現在と昔の様子とを比較してその違いに気付き、開発について追究しようとする意欲をもつことができる。	・レタス畑が広がる写真から気付いたことを話し合う。 ・当時の様子が分かる資料から60年前の様子を調べる。 ・現在と60年前の様子を比較しながら話し合い、学習課題を設定する。 ・今後の学習の見通しをもつ。	・奥中山高原の様子や開発に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。(発言・ノート) 【関・意・態】
2	・写真やVTR等の資料から奥中山高原の概要を捉え、見学や学習の計画を立てることができる。	・写真やVTR等の資料から、見学箇所の様子を捉える。 ・調べることを整理する。 ・調べる方法や持ち物、約束等、調べ方を確認し、次時の見通しをもつ。	・調べることを整理するとともに、見学の仕方を理解している。(発言・ノート)【知・理】
3 5	・見学をし、実際に見たり聞いたりする活動を通して、奥中山高原の様子を調べることができる。	・奥中山高原の畑や開発にゆかりのある施設等を見学する。 佐藤佐一郎墓碑 奥中山開拓記念公園 奥中山農協集荷場 奥中山高原農場展望台	・自分の課題を、観察したり質問したりして意欲的に調べている。(様子)【関・意・態】 ・調べたことを分かりやすく表現している。(ノート)【観・技】
6	・明治の頃、佐藤佐市郎たちが奥中山高原を開拓した様子を理解することができる。	・見学をふり返りながら、開拓のあゆみを整理する。 ・読み物資料から、佐藤佐市郎たちが開拓した頃の様子を調べる。 ・佐市郎が奥中山開拓の父と言われる訳を考え、まとめる。	・明治の頃、試行錯誤を重ねながら開拓が進められた様子を理解している。(発言・ノート) 【知・理】
7	・戦後、奥中山高原に入った人々の開拓やくらしの様子を理解することができる。	・昭和21年に約570戸が入植したことをつかむ。 ・開墾作業に手作業で取り組む様子について調べる。 ・入植者のくらしの様子を調べる。 ・開拓の努力や苦心について考え、まとめる。	・当時の人々の開拓の様子や努力・苦心を、調べたことをもとに考えている。(発言・ノート)【思・判】
8	・開拓が進み、野菜作りが発展していった様子を理解することができる。	・機械化による開墾の様子や施設の導入等について調べる。 ・耕地面積や野菜の生産額の推移について調べる。 ・地域の人々の野菜作りに対する考えや願いを調べる。	・開拓が進んで耕地が広がり、野菜作りが発展していった様子を理解している。(発言・ノート)【知・理】

9	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習をふり返り、開拓の様子を整理してまとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習をふり返りながら、奥中山高原の開拓の様子及び人々の願いや工夫・努力、苦心について整理する。</li> <li>学習して自分が考えたことや思ったことを文章や図でまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人々の願いや開発の努力について捉え、郷土の発展について考えている。(学習プリント)【思・判】</li> </ul>
---	--	--	--

## 5 本時の指導

### (1) 目標

奥中山高原の昔と今を比較して土地の様子の違いに気づき、開拓について調べようとする意欲を持つことができる。

### (2) 構想

本時は単元最初の授業である。まず、広く美しいレタス畑の写真をじっくり眺めさせることによって、気付いたことや感じたことを十分に発表させたい。そのことにより、次に提示する昔の様子の写真と比較したときの驚きや疑問が強くなるであろう。そして、二つの写真を比較しながら気づいたこと取り上げ、60年の間に大きく変化したことに目を向けさせて、奥中山開拓の変遷をテーマとした学習課題を考えさせていきたい。

### (3) 展開

段階	学習活動と内容	指導上の留意点	資料
課題の把握 (10分)	1 奥中山高原のレタス畑の写真をもとに、気付いたことを話し合う。 2 レタスが奥中山高原産であること知り、奥中山高原の様子について学習することをつかむ。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; text-align: center;">奥中山高原について話し合い、学習課題をつくろう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由に発表させる中で、何を栽培しているのかに視点を向けさせる。</li> <li>レタスの箱から奥中山高原産であることをとらえさせ、上質で、東京や東北各地から注文が来ていることを知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真 (現在のレタス畑)</li> <li>レタス</li> <li>レタスの箱</li> </ul>
課題の追究  (30分)	3 約60年前の奥中山高原の写真をもとに、気付いたことや現在のレタス畑との違いについて話し合う。 4 当時の奥中山高原や開拓の様子について調べ、話し合う。 5 疑問に思ったことや調べたいことをノートに書いて話し合い、学習課題をつくる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; text-align: center;">(課題例) 奥中山高原はどのようにして開拓されたのか調べよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昔はどんなところでどのように栽培していたのか考えさせてから写真を提示して、現在のレタス畑との違いについて考えさせる。</li> <li>資料から開拓開始当時の奥中山高原の地理的条件や開拓の様子をとらえさせる。また、当時どんな生活をしていたのかにも目を向けさせたい。</li> <li>現在と昔との比較から、疑問に思ったことや調べたいことをノートに書かせるようにする。</li> <li>話し合う中で、荒地や雑木林をどのようにして開拓したのかに視点を当てていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真 (開拓開始当時の様子)</li> <li>読物資料 (当時の奥中山高原の様子)</li> </ul>
まとめ・発展 (5分)	6 本時の学習をふり返って話し合う。 7 次時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習感想を交流しながら自分の考えの高まりに気付かせ、成就感をもたせるとともに、今後の学習への期待感を高めたい。</li> <li>見学の計画を立てることを知らせることで、次時の学習へ向けての意識化を図りたい。</li> </ul>	

(4) 評価

評価項目	具体の評価規準		努力を要する児童への手立て
	おおむね満足できる	十分満足できる	
・奥中山高原の様子や開発に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。 【関心・意欲・態度】	・現在と昔の様子を示す資料を積極的に読み取ろうとしている。(態度・つばやき・発言) ・開拓の様子、工夫、苦心等、自分が調べようとする課題を1つか2つもって調べようとしている(発言・ノート記述)	・開拓の様子、工夫、苦心等、自分が調べようとする課題を3つ以上もって調べようとしている。	・意図的に声かけや発問をして関心をもたせる。 ・前に戻り対話をしながら現在と昔との違いをよく捉えさせ、疑問に気付かせたり例示をして選択させたりする。

(5) 板書

